



子どもの森づくり通信

NPO法人
子どもの森づくり推進ネットワーク
子森ネット・定期リリース
(2009年8月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264
<http://www.kodomo-mori.net> E-mail:info@kodomo-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもちました方々に、活動情報をお送りさせていただきます。ご意見など賜れば幸いです。

暑さもやっと一段落。朝夕は涼しくなってきました。
温暖化(高温化)の影響でしょうか、今夏も全国でいろいろな自然災害が発生しました。
被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。
大変遅くなりましたが、本日「子どもの森づくり通信(2009年8月号)」をお送りします。

(目次)

- (1) 2009年度一年目の活動レポート
- (2) 普及活動レポート「富良野自然塾環境プログラム研修会レポート」
- (3) フラグシップ園普及MAP
- (4) 2009年度新規園「種拾い活動」実施日アンケートのお願い

「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。

「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて、幼少期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

「JP子どもの森づくり運動」とは

2008年より、日本郵政グループの特別協賛を得、都道府県に一園一事業、全国に普及活動の拠点づくりを目指すフラグシップ事業「JP子どもの森づくり運動」を展開します。

「子どもの森づくり運動」運営体制

- 運営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 特別協賛 : 日本郵政グループ
- 後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟 (社)大谷保育協会
(社)国土緑化推進機構 NPO法人C・C・C富良野自然塾、他



(1) 2009年度実施園一年目活動レポート: 沖縄県宮古島市

「JIP子どもの森づくり運動」2009年度参加園の一年目の活動が始まりました。2009年度一番目の活動は、南国沖縄県宮古島市における地元の樹種「マングローブ」での植林活動です。

- ・実施日: 2009年7月5日(日) ・会場: 宮古島市下地与那覇湾
- ・参加園: 宮古島市公立幼稚園(東幼稚園、久松幼稚園、下地幼稚園) 合同活動 同園児及び父兄
- ・主 催: 宮古島市 NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク



・宮古島市のインストラクター猪澤氏(エコガイドカフェ)による、マングローブの植林のしかたについて、実演付きで説明してもらいました。

・マングローブは、果実が枝に付いた状態で、中の種子が発芽し棒状の胎生種子と呼ばれる状態になり、それがストーンと落ち、やわらかい泥や砂地に刺さり、そのまま育つのだそうです。植林方法も干潟の砂地を、竹串を使ってやわらかくして、そこに種を刺してあげれば終了です。

・ちなみに今回の活動で使用した種子は、落ちた地面が固かったため刺さらなかった種子を猪澤さんが拾い集めておいたものです。マングローブ林周囲での開発などにより、種が落ちてても刺されない土質に変化してしまった所もあるようです。

- ・親子でワイワイ植林です。でも植林場所が狭いので幼稚園ごとに分かれて活動しました。
- ・目印として土を軟らかくするための竹串が刺さっているのので、マングローブの種がきちんと刺さるように、子ども達は熱心に干潟の砂地を竹串でグリグリと耕していました。
- ・開会式のときは、カニでも追っかけていたのか離れていた子でも、保護者や先生に手伝ってもらいながら、目を輝かせて活動の環の中にいました。



・植林したばかりのマングローブを前にしての記念撮影。1ヶ月ほどでしっかりと根付くそうです。

・日本郵政グループからも、社員の方々のご参加がありました。

・宮古島市での活動は、マングローブの種を直接植えるという活動になります。2009年から三年間かけて、宮古島の海に少しずつ「子どもの森」を拡げられたらと願っています。

(2) 普及活動レポート:「富良野自然塾環境プログラム」体験研修会2009

2008年に引き続き、北海道の「富良野自然塾(倉本聡塾長)」の環境プログラム体験研修会を開催しました。「子どもの森づくり運動」の強力なサポーターでもある「富良野自然塾」では、本当に学ぶことの多い子どもたちの環境学習プログラムを運営されています。事務局としては、この研修会は今後も継続したいと思っておりますので、是非もっと多くの方々にご参加いただきたいと願っております。今回はご参加いただいた、日本郵政(株)平山さんによる体験レポートを、スペースの都合でその一部のみ掲載させていただきました。

【日程】平成21年6月30日(火)～7月1日(水) 【参加人数】6名

【行程】一日目:闇の教室/富良野GROUP公演「帰国」観劇

二日目:緑の教室(倉本聡塾長講話)/裸足の道/石の地球/地球の道/植樹



石の地球

石でできた直径1mの「地球」と、そこから数十メートルほど離れた位置にバスケットボール大ほどの「月」、さらに「太陽」は12kmくらい離れた位置にあること、この「地球」「月」「太陽」の位置関係(距離)が絶妙だからこそ、地球上の生物への日光や引力などの影響が丁度よく、地球が「奇跡の星」と呼ばれる所以であるとの説明を受けた。

(感想)

自然界の様々な偶然が重なり、そのおかげで我々生物が存在し得る状態になっている「奇跡の星」地球が、人間の傲慢さによって壊されようとしていることと、それに対して無力な自分に怒りを覚えた。

地球の道

地球誕生から現在までの46億年の経緯が460mのコースで表しており、過去に地球に起きた「全球凍結」「高温化」「生物誕生」などの出来事について学びながら、460m先の「現在」まで進んでいく。

(感想)

「現在」の少し先に『地球は子孫から借りているもの』と書かれた石碑が設置されており、この先も道をつないでいかなくてはならないことを示唆しているようであった。我々は当然に そうしなければならぬし、取り返しのつかないことになってはいけないという思いを強くした。



植樹

「カミネッコン」という、ダンボール(=土に還る)で作られた正六角形のポットに植えられた、それぞれ異なる3種類の苗木を並べて植える。

(感想)

植樹場所の脇の斜面に、倒れた1本のカラマツの木に沿って、クルミの幼木がいくつも生えていた。周辺に大きなクルミの木は1本しかなく、リスが種を運んだのだろうとのこと。倉本塾長の「木のあるところに水があり、生命がある」を目の当たりにした。倉本塾長は「我々はこのゴルフ場が森に還った姿を見ることはできないが、行動し、次につなげていかなくてはならない。」と仰っていた。我々が植樹した苗も、リスが運んだ種も、いつの日かここが森に還るために、小さいが必要な行動なのだということを実感した。



(3)「J P子どもの森づくり運動」フラグシップ園普及MAP(2009年8月現在)



(3)事務局よりのお知らせとお願い

年賀寄附金助成「申請できますか道場」開設のお知らせ

「子どもの森づくり運動」の協働企業「日本郵政グループ」では、すでに60年にわたり、年賀寄附金による社会の役に立つ事業への助成を行っていますが、この寄附金が幼稚園、保育園の遊具になったり、新しい送迎バスになったりしているのご存知の方は少ないようです。この8月に年賀寄附金寄附金助成に申請できるかどうか、申請書の書き方はどうすればいいか、そのような質問に対応する「申請できますか道場」が開設されました。ご興味のある方は、下記WEBサイトをご参照下さい。

<http://blog.post.japanpost.jp/csr/cat13/> (登録者数は先着50名様までとなっております。)

2009年度新規園「種拾い活動」実施日アンケートのお願い

2009年度より「J P子どもの森づくり運動」にご参加いただいた新規園の活動が、秋の種拾いから始まります。現在、事務局では各実施園に対して実施日等に関するアンケートをお願いしております。お忙しいところ恐縮ですがご協力をお願い申し上げます。

